

第3回佐賀市社会教育委員の会議 会議結果(概要)

1 開催日時 平成27年10月27日(火)午前10時00分～11時45分

2 開催場所 ほほえみ館4階会議室

3 出席した者の氏名

○社会教育委員

永野篤子、木原久美子、平川哲男、池田俊明、鶴丸雅加、上野景三、桑原宏樹、碓恵美子、熊本由美子（藤井委員、谷口委員、田口委員は欠席）

○事務局

江副社会教育部長、中島社会教育副部長兼社会教育課長

【社会教育課】小林参事兼副課長兼社会教育係長、馬郡子どもへのまなざし運動推進室長、深川庶務係長、栗山社会教育係主任、吉田庶務係主事

4 傍聴者 1名

5 議題 社会教育助成事業補助金について

○議事

社会教育助成事業補助金について

補助金の積算の考え方や算定方法を示すとともに、補助金の交付に当たって社会教育委員が意見等を行うことができる仕組みを構築することについて提案を行った。

【算定方法や仕組みの構築に関する意見】

- ・ 積算の考え方や算定方法については、一定の評価をする。
- ・ 団体と話し合いの場を持つという点は評価できる。
- ・ 数年に一度の意見交換のほかに、団体の会長が変わった時にも意見交換や問題共有の場をもつてほしい。
- ・ 外部評価をしっかりと行い、外部からの声が団体の活動に反映されるような会議にしてほしいし、新規参入の道も開いてほしい。
- ・ 団体の活動報告と同時に、団体の活動の苦勞も知ってほしい。

【その他団体活動に関する意見】

- ・ 社会教育委員も活動の場に出向いていくのも大事だと感じる。
- ・ 団体との意見交換の場を持つことは非常に良いことだと思う一方、活動を検証したり現場に出向いたりといったことをこの会議(委員)でやるのは難しいとも感じる。
- ・ 予算の問題を考えれば、財源に見合った活動を計画すべきと思う。毎年これをやるというよりも、外部の意見をとりいれて臨機応変に活動できるよう社会教育から提案していけないか。
- ・ 団体の支援を行う場合に、団体の性格や活動内容に着目して個別に行うべきか、それとも一括して行う方がいいのか、といった整理がなかなか進んでいないと感じる。
- ・ 子ども達の居場所づくり等について、警察だけでなく学校や地域など、いろんな機関が集まって支援すべきではないかと考え続けてきた。一つの団体では負担が大きいが、同じ目的を持つ機関が知恵を出し合ってできることもあると思うので、うまくつなぎ合わせられたらと思う。
- ・ マンションなどが増え、これまで地域でカバーできていた範囲がどんどん減ってきている。各種団体の補助よりもまちづくり協議会への補助を増やして地域の活動を支援すべきではないか。

○報告事項

平成 25 年 11 月からの 2 年間に審議してきた主な事業「西与賀コミュニティセンターの役割」と「青少年センター」について経過を説明。

【主な意見】

- ・ 西与賀コミュニティセンターの天体望遠鏡等を有効活用できるよう、継続して取り組んでほしい。
- ・ 青少年センターの中身について、公表できる情報は早く出してほしい。みんなのような取扱いになるのか、気にしている。
- ・ 青少年センターのオープン後に揉めないよう、早めに利用団体の意見集約をする必要がある。
- ・ 子ども達の居場所づくりの拠点の一つとして、市と警察の連携を深めていきたい。

○その他、今後の社会教育委員の会議で議論すべき点について

【主な意見】

- ・ 最近のお母さんはいろんなサークルへ参加しているので、点の関係はあっても線の関係ができていく。線の関係をつないでいくために、まちづくりでなんとかできないかを感じる。
- ・ 子育て支援は以前から比べれば随分充実してきたが、「母親教育」を結婚前の早い段階からできればと思う。
- ・ 地域で中高生が頑張っている校区も多いし、頼めば手伝ってくれる子も多い。まちづくりには若者の力も必要だと思うので、もっと若者を引っ張りこめるような仕組があれば良いと感じる。
- ・ 貧困や勉強についていけない子ども達の支援をしてほしい。また学校にいるのが辛い子ども達もいるので、学校以外の場に居場所をつくってフォローしてほしい。